

# 西フィリピン海盆 Central Basin Fault 西端部の海底調査 (KR04-14 航海) 速報

## Preliminary report on KR04-14 cruise at western termination of the Central Basin Fault, West Philippine Basin

# KR04-14 Cruise Onboard Scientific Party 新城 竜一[1]

# Ryuichi Shinjo KR04-14 Cruise Onboard Scientific Party[1]

[1] -

[1] -

2004年11月3~22日の間、JAMSTECの海洋調査船「かいれい」を用いた海底調査 (KR04-14 Leg1 行動) を西フィリピン海盆西部域において実施した。本調査航海では、同海盆の中央部の古拡大軸とされる Central Basin Fault 西端部の形成と発達史を解明するとともに、拡大に伴うソースマントルの地球化学的特徴も明らかにすることを目的とした。このため、1) マルチナロービームによる海底微細地形および船上地球物理 (重力・地磁気) データの取得と、2) 年代測定および化学分析可能な海底基盤岩の採取をドレッジにより試みた。

### 地形の特徴

本調査航海により、これまで詳細な地形データが得られていない Central Basin Fault の西端部を中心とした海底地形の詳細が明かとなった。Central Basin Fault の西方延長部は、 $19^{\circ}\text{N}$ ,  $127.5^{\circ}\text{E}$  付近で途切れ、それを切るように、西方から大きくうねった波状の拡大ファブリックが発達している。この拡大地形は、その北方の  $24^{\circ}\text{N}$ ,  $127.5^{\circ}\text{E}$  付近から6回におよぶ拡大軸ジャンプによって発達してきたものである。さらに本航海において、同海盆北西部の Urdaneta 海台周辺を中心として行われた KR03-04 航海による地形調査範囲を補完 / 拡充することができた。これにより、同海域で特徴的な拡大地形である重複拡大軸の詳細が明らかとなった。

### ドレッジの成果

7地点でドレッジを行った。Urdaneta 海台西方の1地点で多量のドレライト質玄武岩が採取されたが、Central Basin Fault 西端部域でのドレッジ地点では、極微小な玄武岩岩片が1個と Mn クラストが採れたのみで、新鮮な海洋地殻の採取は困難であった。